

兵庫県青少年赤十字



賛助奉仕団会報

発行者 兵庫県青少年赤十字賛助奉仕団
発行日 令和3年9月1日
事務局 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5

全国青少年赤十字

賛助奉仕団 信条

- 1、青少年赤十字の充実発展に協力奉仕する。
- 1、赤十字思想の普及啓発に努め、平和な社会の実現に寄与する。
- 1、志を同じくする人々と手を取りあい研鑽に努める。

コロナ禍の中で

兵庫県青少年赤十字

賛助奉仕団委員長

中島 健治



全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会は昨年度は書面開催。本年度はZoomを使ったオンラインによる会議となりました。議案書に対する質問もほとんどなく最後は議決をされたかどうかの確認もなく終わってしまった感がある。当日私のパソコンのインターネット不調であったので、気付かない間に採決がされていたのかもしれないが…。

ともかくコロナ禍での活動スタートとなりました。「こんな中でもできる活動をする。」そんな思いが強くなりました。

兵庫県では何をすればということ、会報を出そうと考え、事務局と相談してきただけ会計の負担が少なく済むよう業者に依頼するのではなく手作りの会報をと思に至りました。

これからの活動はコロナの感染状況によって対応せざるを得ませんが、研修会をしようと考えています。小学校国語五年生の教科書には点字・手話を取り上げているものがあります。学校によっては点字の講習を支部に依頼してくるということです。

兵庫県声の図書赤十字奉仕団のメンバーが対応しているのですが、講習の依頼が集中した場合、兵庫県青少年赤十字賛助奉仕団で手助けできればと思いい研修会を開催したいと考えています。

コロナ禍の終息は全く見通せませんが、

今だからできる活動を皆様と一緒に見つけ実践していきたいと思えます。

昨年度はJRCのトレーニングセンターが中止になり賛助奉仕団の出番がありませんでしたが、本年度はいろいろ工夫を凝らし支部七階を使い中高の生徒が集まりアクションプログラムと称した活動が行われ、その場に同席させていただきました。

この度の会報には参加していた生徒などに原稿を依頼し掲載しております。会報を思いついたのが遅かったため原稿依頼が遅くなり多くの皆様には大変ご迷惑をおかけしましたこと、紙面をお借りしてお詫び申し上げます。

青少年赤十字100周年に向けて



日本赤十字社兵庫県支部

事業部奉仕課長

岡本 昇

二〇二二年（令和四年）、青少年赤十字は創設から一〇〇年という節目の年を迎えます。

活動の始まりは、第一次世界大戦時にカナダやオーストラリアの子どもたちが兵士やその家族に慰問品を贈ったことがきっかけといわれており、国内でも一九二二年（大正十一年）関東大震災での食料・文具支援をはじめ、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう日常生活での実践活動を通じて地域社会や世界のためにさまざまな活動を行ってきました。

現在、人々の生活は新型コロナウイルスの感染拡大によって一変し、子どもたちの学校生活も、修学旅行・運動会・音楽会など多くの行事が規模縮小、延期または中止を余儀なくされています。

先の見えない不安な状況が続くなかで、兵庫県青少年赤十字メンバーは、先輩方から受け継いできた「気づき・考え・実行する」の態度目標を日頃から意識し、コロナ禍において自分たちができることは何かを考え、新型コロナウィルス感染症の予防啓発や医療従事者へ応援メッセージを届ける活動に取り組んでいます。

現状におきましては、感染拡大が収まらず活動が制約されていますが、コロナ後の未来を見据え、青少年赤十字を次の世代に繋げるため、私たちはこれらの活動を広く発信していきます。

兵庫県青少年赤十字賛助奉仕団におかれましては、一九七九年（昭和五四年）、兵庫県青少年赤十字賛助会として発足以来、四十二年間、兵庫県の青少年赤十字活動を支援していただいているところで、青少年赤十字の更なる発展のため、引き続きお力添えいただきますようお願い申し上げます。

疫病の11月

宝塚市 齋藤 武夫

今まさに私たちは疫病の餌にされているが、むかしは病原体が不明なため、迷信と噂と神頼みの日々だったにちがいない

い。
私の住居周りには十一ばかりの「小字」の集落がある。その一つに「有馬・京伏見街道」沿いの小さな村がある。秀吉も湯治に通っていた今でも鄙びた道だ。すぐ傍に篠山に抜ける「丹波街道」が直交している。

数十戸前後の小さな集落があり、その村はずれの道沿いにほとんど目立つこともない苔むした粗削りで素朴な石碑が祀られている。十人通れば十人とも目もくれることのないこじんまりとした碑だ。散歩の途中にこれをよくよく見てみると「青面金剛」と彫られ、「宝永二年正月」と微妙に読める。これは西暦一七〇五年にあたり、赤穂浪士討入りの二年後で、伊勢では流行りの「お陰げ参り」が三五〇万人に達した年でもある。

因みにこの村の神社の石の鳥居には「元禄八」とあるから一六九五年だ。少しばかりはなれた伊丹の猪名野神社の神輿初巡行が一七〇三年だ。
つましい暮らしの中で村の衆が知恵を出し合って「鎮守の森」を祀り、村人の無病息災を祈願して庚申の夜を通して過ぎ、疫病封じに村の入り口に建てた素朴な願いが込められた記念の碑だ。今から三〇〇年余り前の事だ。

ついでの近辺の村も確かめてみると、どの村もそのはずれにこの「青面金剛」碑が建てられていることがわかった。その内、年号のわかる三つは一七〇三年正月と同年十一月のものだ。年号のわかる三体は同じころの建立なので、互いに近くで影響しあったものだろう。これらのことから、幕藩体制がこの小

さな村まで確立されてきた事が推察される。

これらの石碑の規模は集落の財力を反映していて、一〇〇戸を越える大きな村で、水利上も有利な上手にあり、その「青面金剛」はお堂を備え、石も大振りですっかりしもので着色までされ飾りの彫もフル装備のもので、いまもなお忘れさられず地域の古老がお参りし世話をしている。

このようにあちこち碑や巡礼道の道標を訪ねうろついているうち、いきなりひどい倦怠感に襲われた日があり、たまたまに医院に行くと「肺炎」を起こしていた。辛い経過は軽く済んだので助かった。もし発熱もひどければ「入院お断り」の時節柄、地獄をみるところだった。石碑一つで多くを勉強をさせてもらうことになった。

コロナ感染拡大を受けて、今年度は、例年夏に開催している、青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターの実施が難しい状況であったため、形式と内容を変更して、コロナ禍においても赤十字の学びの場を提供するためにアクションプログラムを開催されました。
参加者の感想をいただきましたので活動時の写真や作品と共に掲載しました。

兵庫県立加古川東高等学校

神戸第一高等学校

堀江 実生

昨年のJRCの例会はオンラインだったため、今回が初めての対面での参加でした。

最初は初めて会う他校の人との共同作業に緊張していましたが、アイスブレイクを通して徐々に打ち解けていきました。その環境の中で改めて、事前にオンラインで講義を受けた、コミュニケーションの大切さを実感しました。アクションプログラムでは、事前に写真撮影する際、地元の良さを考えるきっかけになりました。また、他校の生徒が撮影した動画や写真を見て、兵庫県の新たな魅力を知ることができました。

その他にも、ポスターやメッセージカード作成などを通して日々闘う医療従事者への感謝を伝え、感染予防等の啓発活動を行うことができて良かったです。このような状況の中、活動に参加することができてとてもよい経験になりました。

これから私たちは普段の部活の中でも、今回したような自分達にできることに気づいていきたいです。



私は一昨年に引き続き参加しました。今回は昨年から流行している新型コロナウイルスについて三グループに分かれて活動しました。

コロナ感染予防呼びかけポスターを作成した班は可愛いイラストと一言や短い文を上手に組み合わせ、誰が見てもわかりやすく伝わりやすいポスターをたくさん作れました。

医療従事者の方へのメッセージカードを作成した班は、自分達の中だけでなく他の二班の人にも書いてもらうように声掛けをする姿を見ました。より多くの感謝が伝えられたと思います。

地域PR動画を作成した班は撮影場所が違う動画をできるだけ短くまとめて心地良いBGMをつけ、見る人に疲れさせない動画が作れたと思います。それぞれの班がたくさん工夫し、協力してできていたので、良かったです。早くコロナが終息して、また大規模にしあわせの村で開催できるといいですね！



兵庫県立柏原高等学校

インターアクト部部长 宮本莉絵

この一年間、私たちは新型コロナウイルスによる部活動制限にとっても苦しめられました。部員一人一人が様々な意志を持ってインターアクト部に入学したにも関わらず、活動内容はすぐ限られていました。しかしそのような状況下で自分たちができることに精一杯取り組むことが最も大切だと部員全員で再確認し、毎日頑張ってきました。

昨年は校外の方々と実際に会って活動することが難しかったため講演会にリモートで参加したり、車いすマップを作成したりと他者と間接的にかかわる活動を中心に行いました。

今年の四月頃からは防災の話を伺に行ったり、日本赤十字社兵庫県支部を訪れてアクションプログラムに参加したりと校外での活動が増えてきていてすごく幸せに感じています。

コロナ禍での活動を通して、人とかかわることによって得られる学びや温かさがすごく大切なものだと気づきました。また、自分

たちに何ができるのかというのを常に考え続けることが自分自身や周りの人を助ける一つの行動なのだと学びました。



赤穂市立赤穂中学校

亀井 優風

最初はとても緊張していたけど、JRCアクションプログラムの中で、みんなの気持ちに寄り添ってくれるようなことを教えてくれたおかげで、緊張がほぐれ集中してお話しを聞くことができました。本当にありがとうございました！これからの生活で、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションの違いをしっかりと頭に入れて生活をしたいなと思っています。

椎畑 歩乃佳

日本赤十字社兵庫県支部に行った時、高校生と交流できて新たに学べた事もあったし、高校生の皆さんが、元気で話しやすいおかげでリラックスしてできました。とても良い経験になりました。これからの生活に生かしていこうと思います。

本林 春乃

JRCについて詳しく知れて、特にコミュニケーションとリーダーシップ力が印象に残りました。普段とっているコミュニケーションで相手にしっかりと気持ち伝わっているか、リーダーシップ力の大切さを考えることができました。

コミュニケーションとリーダーシップ力について他の人にも知ってもらおうと学校で行われたリーダー研修会というので模造紙にまとめた事を声の速さ、間の置き方を意識して話したり、言語・非言

語コミュニケーションを劇にしたりすることで聞いてほしい人に分かりやすく伝えられました。

有田 唯楓

JRCについて知らなかったことがたくさん知れたし、コミュニケーションやリーダーシップ力についても知れたので、とても勉強になりました。JRCアクションプログラムに参加してない人のために、八月三十日に赤穂中学校であったリーダー研修会でコミュニケーションとリーダーシップ力について学んだことを発表しました。伝えるのは難しかったけど、友達と協力して伝えることができました。JRCについて知らないことがまだまだあるので知りたいです。

板橋 柚季

神戸に行ってアイスブレイクをやってみて、初めて会う高校生とどうコミュニケーションを取ればいいのか分からなかったけど、簡単な自己紹介やジェスチャーだけでもその後話しやすくなったので、人とのコミュニケーションの取り方を一つ学ぶことができました。学校の発表で、みんなにアイスブレイクをしてもらって、あまり話すことのない人ともこれを通してコミュニケーションが取ることができました。

阿賀 心美

JRCに参加して、リーダーにはコミュニケーション力も必要だという事を知りました。私は初対面の人と話すのは苦手意識がありますが、アイスブレイクを

したことで、少し話やすくなりました。JRCで学んだアイスブレイクを同級生の前で発表し、実際にしてもらいました。すると、みんな楽しんでいて会話も増えていたので、コミュニケーションをとるには、心を開くことが大切なんだと思いました。リーダーについて学べていろいろ経験ができて良かったです。

玉浦 愛弓

私は、今回JRCアクションプログラムに参加しました。オンラインでは「言語コミュニケーション」「非言語コミュニケーション」について学びました。どちらともこれから活かそうです！

日本赤十字社に行った時には、「アイスブレイク」を学びました。実際にリーダー研修で「アイスブレイク」を使ってみました。場をしっかりと和ませることができました。これから使っていきたいなと思います！



神戸青年赤十字奉仕団

委員長 西尾 太雅

八月四日と六日に例年開かれていたトレンセンに代わる活動としてアクションプログラムが実施された。コロナウイルスの蔓延状況に鑑みて、一日目はオンラインでの学習会となつてしまったものの、二日目は予防措置を講じつつ無事に対面で開催することができた。二日目の活動では、高等学校三校と中学校一校が協力して、赤十字やコロナに関するポスターの作成と医療従事者へのメッセージボードの作成、そして地元の魅力を紹介する動画制作に取り組んだ。彼らの活動を通して、主に二点において驚かされた。

第一に年齢や性別を超えた連携である。先生方のアイズブレイクを経て、各々の所属校や異性間での会話の障壁は大方取り除かれたが、依然や固さが見られた。しかし活動が進むにつれ、出身校を超えた意見交流が多く見られるようになり、異性間でもそれは同様であった。中学生と高校生間の会話が絶えない班や、中学生が主導となって運営している班、男女コンビが主導していた班は、特に印象的であった。

第二に状況への対応力である。今回の活動で活用した機器類は、授業で日頃使わないとのことながらも、短時間で使いこなしていたのが印象的であった。特に電子黒板に文字やイラストを描くのは、紙面上とは勝手が異なるために序盤では難儀している様子もあったが、それは単に時間の問題であった。

コロナ禍ながらも直接の会話や交流の機会を持てたことは嬉しいことで、今後に繋がる活動となった。

神戸青年赤十字奉仕団

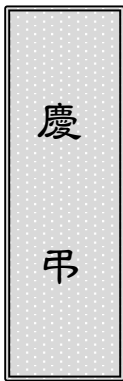
副委員長 嶋田仁美

私はこの春から神戸青年赤十字奉仕団の副委員長を務めさせていただいております。私が青年奉仕団に入団したきっかけは、自分の過去の赤十字活動を生かしたいと考えたからです。私は、小学生の時に青少年赤十字の加盟校に通っていました。夏に行われた青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターや冬に行われた青少年赤十字スタディー・センターに参加させていただいた経験がありました。そこで赤十字のことはもちろん、ボランティア・サービスや救急法についても学びました。大学に入学し、神戸青年赤十字奉仕団募集のポスターを見、経験を活かしたいと思い応募させていただきました。

そして、副委員長として八月四日と六日に行われた令和三年度青少年赤十字アクションプログラムに参加させていただきました。新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、様々な活動が制限されています。コロナ禍でなかなか思うように活動ができないなか、多くの中高生が参加してくださいました。プログラム内では中高生がグループに分かれ、協力して作業をこなしていました。その様子を拝見させていただいたときに、助け合い・

支えあい大切さを改めて感じる事ができました。コロナウイルス感染症という目に見えない脅威から私たちの身を守るためにも、多くのひとの協力や支え合いが大切だと思います。困難な状況下だからこそ、支えあい・助け合いの精神を大切にしていきたいです。

本奉仕団も、奉仕功劳特別感謝状をお受けいたしました。



昨年度、次の方々が日本赤十字社から表彰をお受けになりました。

奉仕功劳特別感謝状

- 市橋 勲 氏
- 藤原 三樹二氏
- 西村 行夫 氏
- 金色有功章 安本 實 氏

また、支部長からの感謝状を、次の方々がお受けになりました。

- 金梓感謝状
- 銀梓感謝状
- 田寺 和徳 氏
- 村山 美生 氏
- 濱田 浩嗣 氏
- 中野 清秀 氏
- 溝口 繁美 氏

令和3年度兵庫県青少年赤十字協議会役員名簿

役職名1	校種別	役職名2	氏名	職	学校名
会長			世良田 重人	校長	兵庫県立神戸高等学校
副会長	高等学校協議会	会長	西 茂樹	校長	兵庫県立明石高等学校
副会長	中学校協議会	会長	猪谷 和寛	校長	赤穂市立赤穂中学校
副会長	小学校協議会	会長	中野 龍文	校長	丹波篠山市立城南小学校
監事	高等学校協議会	副会長	大垣 喜代和	校長	兵庫県立柏原高等学校
監事	高等学校協議会	副会長	西坂 美樹	校長	兵庫県立佐用高等学校
監事	中学校協議会	副会長	裏地 広之	校長	宝塚市立中山五月台中学校
監事	小学校協議会	副会長	西尾 隆	校長	伊丹市立神津小学校
常任委員	高等学校協議会	委員長	久保 哲成	教諭	兵庫県立柏原高等学校
常任委員	中学校協議会	委員長	長岡 朋	教諭	親和中学校・親和女子高等学校
常任委員	小学校協議会	委員長	道木 尚	教頭	戸屋市立精道小学校

